St. Luke's International University Repository

COVID19感染拡大下における精神看護学の取り組み：遠隔授業・演習での実践

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-04-06 キーワード (Ja): キーワード (En): Coronavirus Pandemic, Online Class, Psychiatric Nursing, Online Survey 作成者: 福島, 鏡, 榊, 美樹, 青木, 裕見, Fukushima, Kagami, Sakaki, Miki, Aoki, Yumi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00016731

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

短　報

COVID19感染拡大下における精神看護学の取り組み：遠隔授業・演習での実践

福島　鏡*　榊　美樹　青木　裕見

Report on the 2022 Course “Psychiatric Nursing” and “Psychiatric Nursing integration” during the Coronavirus Pandemic —Remote Learning using Three Different Type of Learning Styles—

Kagami FUKUSHIMA *　Miki SAKAKI　Yumi AOKI

〔Abstract〕

This report examined students’ feedback and evaluated the online courses “Psychiatric Nursing” and “Psychiatric Nursing Integration” during the coronavirus pandemic. These courses consisted of three different types of learning styles: on-demand classes and case study group discussions and question and answer sessions on Zoom. We conducted an online survey, which showed that approximately 90% of the students achieved the course objectives. More than 70% answered that they were satisfied with each type of learning style. Particularly, students preferred on-demand classes to other types of learning styles. The open-ended comments showed that on-demand classes allowed students to proceed at their own pace. However, students felt it was hard to be actively involved in group discussions on Zoom. In the next year, further improvements are necessary following these results.

〔Key words〕Coronavirus Pandemic, Online Class, Psychiatric Nursing, Online Survey

〔要 旨〕

本報告は，新型コロナウイルス感染症の流行に伴いオンラインで実施した，本学の科目「精神看護学」および「精神看護学統合」について振り返り，学生からの意見をもとにその活動を振り返ることを目的とした。2022年前期に行った本科目の講義は，オンデマンド講義・ZOOM　LIVE演習・ZOOM　LIVE質問への回答の３つの形態で実施した。全講義終了後，受講生に科目目標の達成度や授業形態の満足度について任意で回答を得た。調査の結果，８～９割の受講生が科目到達目標を達成できたと回答していた。また，各授業実施形態の満足度は，７割以上の受講生が満足と回答し，特にオンデマンド講義の満足度が高かった。自由回答では，オンデマンド授業は自身のペースで受講を進められるという意見や，ZOOM　LIVEによる演習は，発言のしにくさ等の難しさがあるとの意見が挙がった。今後は，より学生が学びを深めやすくする工夫が必要である。

〔キーワーズ〕新型コロナウィルス感染症, 精神看護学, オンライン講義, オンライン演習

聖路加国際大学大学院看護学研究科・Graduate School of Nursing Science, St. Luke’s International University
*Corresponding author

受付　2022年10月25日　　受理　2022年11月８日

Ⅰ．はじめに

新型コロナウイルスの影響により，2020年度より本学で実施する多くの科目は，オンラインでの授業実施を余儀なくされた[1)]。文部科学省による「遠隔授業等の実施に係る留意点及び実習等の授業の弾力的な取扱い等について」[2)]では，必要な学修の機会を確保するため，対面授業に相当する教育効果を有すると大学等が認めるものについては，自宅での遠隔授業も認められることが示された。精神看護学領域で実施している講義も，感染拡大予防の観点からオンラインでの講義・演習を交えながらの実施となった。

加えて2022年度は，新カリキュラムが施行され，これまで別々に講義を受けていた４年制コース３年生と学士編入４年生とが合同で講義を受けることとなった。つまり，2022年度の「精神看護学」（４年生コース３年生）および「精神看護学統合」（学士編入４年生）は，合同科目として展開することとなった。そこで，合計130名の学生が，お互いの知識やこれまでの経験を踏まえて，続く６月からの臨地実習に向けて有意義な学びにつながるよう，また，感染予防の点でも安全に受講できるよう講義形態と内容を刷新して実施したため，報告する。

Ⅱ．「精神看護学」および「精神看護学統合」の概要

１．学修目標と到達目標

本科目は，９つの到達目標に沿って授業を進めた。本科目の到達目標を**表１**に示す。

表１「精神看護学」および「精神看護学統合」の到達目標

目標１）	精神保健，精神疾患，精神的困難を有する人の病態・状態像を理解する
目標２）	各種モデルを用い，対象の状態をアセスメントできる
目標３）	精神疾患および精神的困難を持つ人を取り巻く歴史的背景や法制度，利用できるサービス・サポートを説明できる
目標４）	集団力動について理解を深め，個人と集団の相互作用について述べることができる
目標５）	集団精神療法，セルフヘルプグループ，心理教育等における集団の治療的意味を説明できる
目標６）	臨床で，集団の一員として活動する際の対人関係スキルについて学び，使用することができる
目標７）	家族をシステムとして捉える視点を学び，家族アセスメントに使うことができる
目標８）	家族ライフサイクルの視点から，各発達段階における家族の特徴と健康課題を説明できる
目標９）	家族と個人のメンタルヘルスの関連について述べることが出来る

２．授業の概要

本科目は，2022年４月から５月にかけて実施され，４年制コース３年生の学生は３単位31コマ（試験含む）の講義を100名が履修した。学士編入４年生は旧カリキュラムで実施したため，４単位47コマ（試験含む）の講義を30名が履修した。

３．学習内容

学習内容は，1.にあげた到達目標に沿って設定され，バイオサイコソーシャルモデルやセルフケアモデル，ストレングスモデルなど，精神疾患をもつ対象を理解し，アセスメントするためのモデルや理論を基盤に，統合失調症や気分障害，物質使用障害といった各精神疾患の病態と治療・看護を学べる内容とした。理論モデルの講義には，到達目標に含まれている「集団の治療的意味」や「家族をシステムとしてとらえる」といった，対象を取りまく人的・物的環境にアプローチする視点を養うためのコマも含めた。

また，履修生は本科目終了直後の６月より領域別の臨地実習を控えていたことから，講義内で学んだ知識をもとに，患者や家族への声掛けや対応，アセスメント，グループでのカンファレンスが本講義内でも練習できるよう，架空の事例を用いたグループワークのコマを設け，グループでディスカッションしながら，実習で必要となる知識やスキルを学べるような構成とした。

４．実施形態

本科目の授業形態とそれぞれの概要を**表２**に示す。

本科目は，新型コロナウイルス感染症予防の観点から，オンデマンド講義やZOOM LIVE演習といったオンラインでの実施を主として実施した。

理論やモデル，各精神疾患の病態・治療を学ぶ講義は①オンデマンドまたはZOOM　LIVEで実施し，配信した資料や動画，教科書の該当ページから自己学習を進めることとした。

①で学んだ知識を元に，患者や家族への対応やアセスメントを学ぶための演習は，②ZOOM　LIVE演習の形態で実施し，テーマは５つの疾患（うつ病，アディクション，統合失調症，双極性障害，不安症/強迫症）および，ソーシャルスキルトレーニング（SST）を取り上げた。

各演習では，冒頭に講義や教科書で学んだ内容の復習となるミニテストで知識の確認をした後に，精神疾患を持つ方に関する架空事例とディスカッションポイントを提示し，ZOOMのブレイクアウトルーム機能を用いてグループに分かれてディスカッションを通して事例検討を行った。演習記録は，グループごとに用意されたGoogle document上で記載することとした。教員はグループワークの間，各ブレイクアウトルームを巡回しな

表２　本科目の授業形態と実施内容

授業形態	コマ数	概要
①オンデマンド授業/ZOOM LIVE授業	23	対象理解のための理論モデルや各精神疾患の病態と治療・看護に関するオンデマンドまたはLIVE授業を視聴し，教科書該当ページで予習・復習する
		授業に関する質問やコメントは manaba のアンケートに提出
②ZOOMLIVE演習	6	ZOOM を使って下記の流れで事例演習を行う 1 オンデマンド講義に関するミニクイズ（全体） 2 事例紹介とディスカッションポイントの解説（全体） 3 事例に関するグループ討議（ブレイクアウトルーム） 4 各グループで話し合った内容の共有（全体） 5 教員からのフィードバック（全体）
		質問は演習内・演習後に manaba アンケートへ提出
③ZOOM　LIVE 質問への回答	4	授業の前半は，それまでの授業や演習のmanabaアンケートにあがった質問を取り上げ，LIVEで回答（解説）する。その場でも質問を受け付ける。後半は、オンデマンドで配信されている①に取り組む

がら，グループをファシリテートした。ディスカッション終了後，全体での意見交換の時間を持ち，グループで挙がった多様な意見を共有する時間とした。

上記①②で学んだ内容について，各講義終了後にmanabaで質問を募った。寄せられた質問に対して回答をする③ZOOM　LIVE　質問への回答という時間を作り，学生からの質問に回答した。昨年度までの精神看護学の講義でも，寄せられた質問に対し，回答スライドを作成して配信していたが，新型コロナウイルス流行後にオンライン講義が主となったことにより，学生間や，学生・教員間のインタラクションを活発にして学びを深められるよう，質問への回答をZOOM LIVEで回答する時間を設けることとした。

Ⅲ．遠隔授業・演習に参加した履修者の反応

本科目終了後，目標の達成度や授業の感想について，履修生に任意のアンケートを行い，66名から回答が得られた（回答率50.7％）。アンケートは，無記名で個人が特定されることはないこと，大学紀要にデータを公表することについて説明し，同意いただける方のみ回答していただくこととした。本アンケートは，９つの科目到達度と，授業形態別満足度，精神看護学にどの程度興味を持てたか，自由記載の４つのパートで構成した。その結果を以下に述べる。

１．各到達目標の到達度（１ ～ ９）

各到達目標の達成度について,「非常に達成できた」「わりに達成できた」「少し達成できた」「あまり達成できな

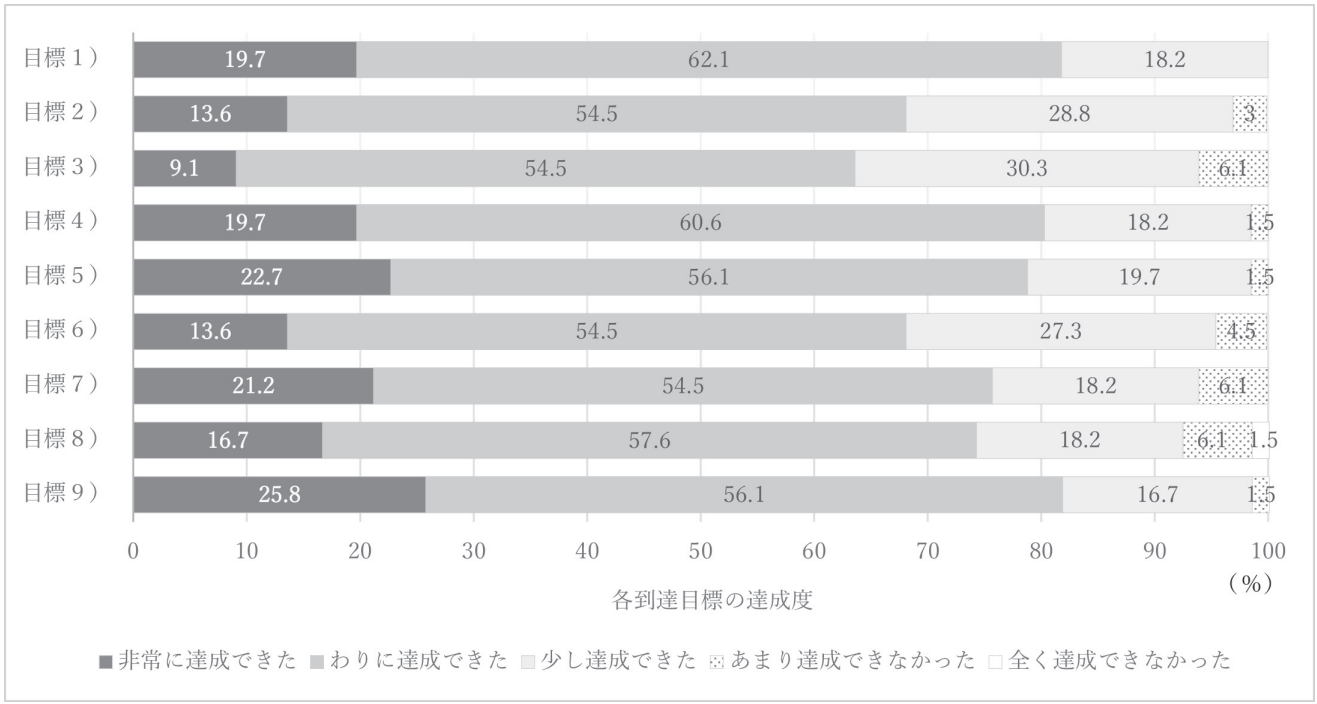

図１　本科目の目標達成度

かった」「全く達成できなかった」の５段階で評価を求めた。その結果を**図１**に示す。達成できたと回答した受講生の割合は，各到達目標で８～９割にのぼり，本科目を受講することによって，到達目標に示されている知識・技術が身についたと感じた受講生が多いことが分かった。

２．授業実施形態別の満足度

アンケート結果から，授業形態別満足度と，良かった点，悪かった点を聴取した。満足度は，「不満」「やや不満」「どちらともいえない」「やや満足」「満足」の５段階で評価した。

１）オンデマンド/ZOOM LIVE授業

ⅰ満足度

オンデマンド/ZOOM LIVE授業満足度のアンケート結果を**図２**に示す。

オンデマンド/ZOOM LIVE授業に「満足」「やや満足」と回答したものは，全体の約９割を占め，「どちらともいえない」「やや不満」「不満」と回答した者は，約１割であった。オンデマンド授業およびZOOM LIVE授業の録画は，自分の好きなときに視聴できること，わからない箇所は繰り返し視聴できる等の利点があり，全体的に高い満足度が得られた。

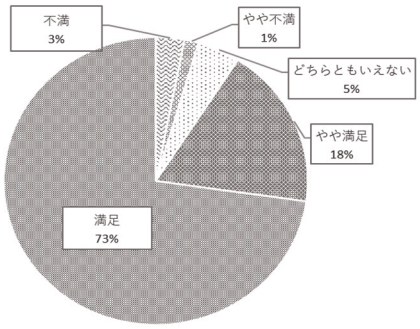

図２　オンデマンド/ZOOM LIVE授業の満足度

ⅱ良かった点

オンデマンド/ZOOM LIVE授業の良かった点として，自由記載では「動画の速度を早めたりして効率的に学習できた」「通学時間の短縮になった」といった，時間の有効活用に関する意見が挙がっていた。また，「自分のスケジュールやペースに合わせて学習することができた」という意見や，「繰り返し視聴することで理解が深まった」といった，個人に合わせた学習ペースの構築や理解の手助けとなったという意見も挙がっていた。

ⅲ改善点

オンデマンド/ZOOM LIVE授業の改善点として，自由記載では「対面で同じ空間に級友がいるのと比べて，学んでいる感じがしない」「動画の時間が授業時間を超えるものがあった」といった意見が挙がっていた。

２）ZOOM LIVE演習

ⅰ満足度

ZOOM LIVE演習満足度のアンケート結果を**図３**に示す。ZOOM LIVE授業に「満足」「やや満足」と回答した者は全体の約７割を占め，「どちらともいえない」「やや不満」「不満」と回答した者は，約３割であった。本演習形態は，今年度から新しく取り入れた形態であったが，満足度の高い結果となった。

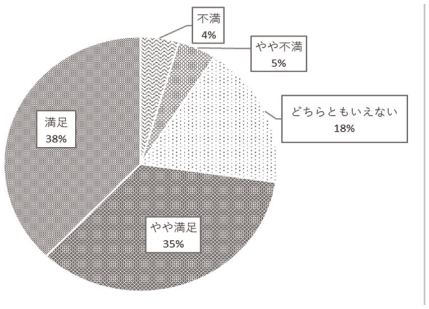

図３　ZOOMLIVE演習の満足度

ⅱ良かった点

ZOOM LIVE授業の良かった点として，自由記載では「オンデマンド授業で得た学びを深めるような演習内容になっていた」「Google driveを用いたので記録作成がしやすかった」といった，授業の構成や用いたツールへのコメントが挙がっていた。また，「グループワークを通して自分にはなかった様々な考えを学ぶことができた」といった，他者との意見交換を通じて学びが深められたという意見も挙がっていた。さらに「感染対策として万全の中授業を受けることが出来た」という意見も挙がった。

ⅲ改善点

ZOOM LIVE授業の改善点として，自由記載では「話す人が限られてしまっていた」といった意見が挙がっていた。また，「ZOOMだと話すタイミングがつかみにくかった」「顔出ししてくれない（または回線状況でできない）メンバーがいて対面の方がやりやすいと感じた」といった，ZOOMという環境特有の困りごとに関する意見も挙がっていた。

３）ZOOM LIVE　質問への回答

ⅰ満足度

ZOOM LIVE質問への回答満足度のアンケート結果を**図４**に示す。ZOOM LIVE　質問への回答に「満足」「やや満足」と回答したものは，全体の約８割を占め，「どちらともいえない」「やや不満」「不満」と回答した者は，

約２割であった。質問への回答を本形態で実施するのも今年度からであったが，満足度の高い結果となった。

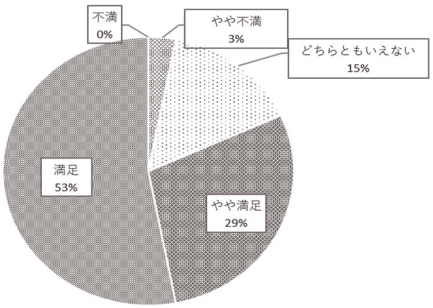

図４　ZOOM　LIVE質問への回答の満足度

ⅱ良かった点

ZOOM LIVE　質問への回答の良かった点として，自由記載では「文章でなく実際にLIVEで行われることで，回答の理解がしやすかった」「manabaを使用していて質問のしやすい環境だった」といった，授業形態に対するポジティブなコメントが寄せられた。また，「質問への丁寧な回答で理解を深めることができた」「他の人の質問を聞くことで理解が深まった」といった，学修の理解を深めることに役立ったという意見も挙がっていた。

ⅲ改善点

ZOOM LIVE　質問への回答の改善点として，自由記載では，「後半のオンデマンド授業により駆け足で進めたり別途動画を視聴する形になっていた」「講義時間を超過してしまっている」といった，授業の長さに関する意見が寄せられていた。また，「LIVEではなくオンデマンド形式が良い」といったニーズも寄せられていた。

３．精神看護にどの程度興味を持てる授業であったか

精神看護にどの程度興味を持てる授業であったか，１～10の10段階で評価をしてもらった。その結果を**図５**に示す。７～10と回答した者が59名と，回答者の約９割を占めていた。

また，本科目の感想として，「講義を通して興味深く，精神疾患を抱える人への支援方法を身につけたいと感じた」「教員からのフィードバックがよかった」「多くの疾患をわかりやすく理解できた」「ロールプレイが多いため，実際の看護過程を体験し，看護師像をイメージしやすかった」「架空の症例を使って関わりを検討することは，すぐ実践に使える」「事例検討のGWで，学部・学士同士で意見交換ができ学びを共有できた」「病態理解やストレングスの支援が大切であることを学べた」などが挙がった。

講義と演習を結び付けた学習方法に対して，学生から多くの肯定的な意見が聴取された。

Ⅳ．ピアレビューで頂いた反応

本学では，教員が行う授業の質の担保と改善のため，他領域の教員同士がお互いの授業を評価するピアレ

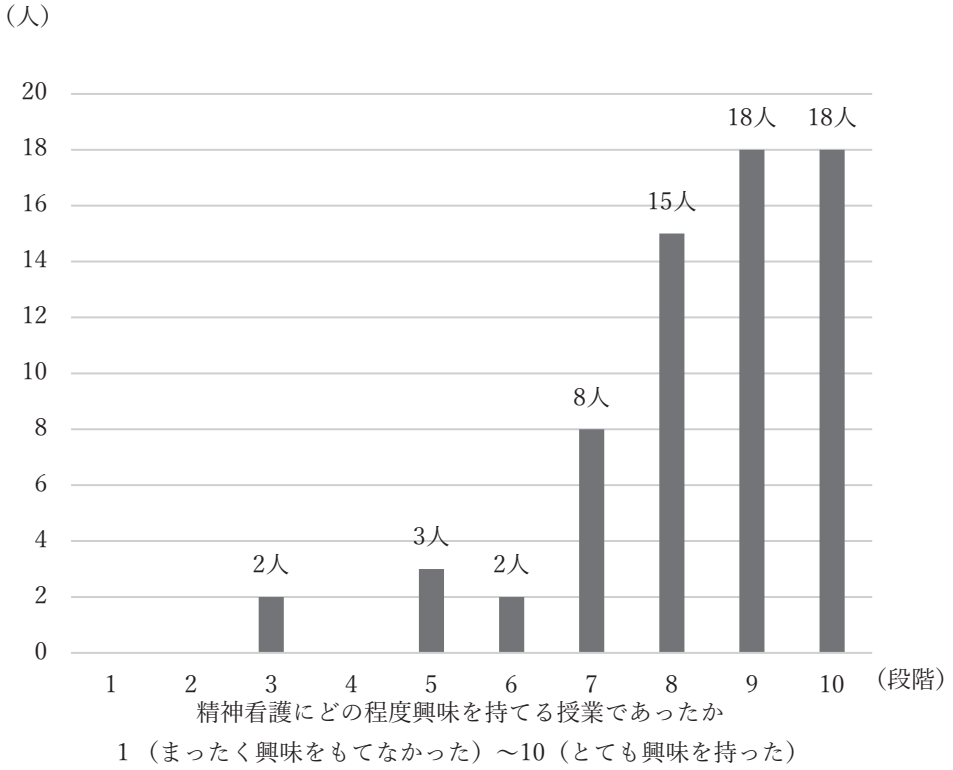

図５　精神看護への興味（１～10段階評価）

ビューを導入している。本科目においては，２回のレビューを受けた。

１）双極性障害の講義と演習

双極性障害の講義をオンデマンドで視聴後，ZOOM LIVEでの演習を実施した。講義で学習した知識を用いて，演習では実際の患者のケアを考える構成とした。ピアレビューでは，実習に向けた準備に繋がることを再確認できる，グループワークで学生同士が講義で学習した知識を用いてディスカッションできていた，という意見があった。また，講義では，最初に学生が興味を持ちそうな話題を示してから，疾患の説明に入る流れがスムーズであったこと，患者の手記の紹介は実際の事例と知識を統合できることがあがった。

２）集団力動講義とSST（Social Skill Training)演習

集団力動講義で学習した内容を演習の前にZOOMのアンケート機能を用いて知識の確認をした。この演習の理解には講義の内容の復習が重要であり，アンケート機能を用いた知識の確認は知識の定着に寄与するという意見が挙がった。

SST演習での話題提供に時間を要するグループがあり，アイスブレイクが必要ではないかという意見があった。本科目は学部・学士が合同で行うこと，学生同士顔見知りでないこともある。よって，演習前にアイスブレイクを効果的に導入することで，ZOOMでの演習でも学生間のディスカッションが促進されることが期待できると考えた。

Ⅴ．考　察

昨今のような感染症の流行期，またアフターコロナを見据えた上でも看護教育においてオンラインでの学習が併用になる可能性が高い。本科目を振り返り，オンラインを活用した精神看護学の教授方法の示唆について述べる。

１．オンライン講義と学生のニーズ

まず，オンデマンド講義(LIVE講義の録画含む)については，感染症予防の観点からも安全に授業が実施できることや，学生が自分のペースで学修を組み立てられたりし，学生の主体性を尊重できる教授方法であったと考える。また，寄せられた回答の中には，通学時間の短縮や，動画速度といった，時間の活用に関するコメントが寄せられていた。多くの授業を履修している学生にとって，オンデマンド講義は，時間の有効活用に関するニーズに合った教授方法であったと考える。

２．オンライン環境がもたらしていた課題

グループワークをオンラインで取り入れたことにより，グループメンバーとのディスカッションの中で思考を言語化し，他者の考えを聞くことで学びを深める機会を提供できたと考える。しかし一方で，発言のしにくさや，画像をOFFにして声だけで参加する学生がいることで，グループワークの進行に困難が生じるなど，実施に当たってはオンライン環境特有の難しさもみられた。今後は，発言しやすい雰囲気を作るためのアイスブレイクの時間を授業冒頭に充分とることや，オンライン演習を円滑に行うために司会や参加者ができる工夫を伝えながら演習を進めていくことが必要と考える。

Ⅵ．今後の展望と課題

今年度実施したオンデマンド講義及びオンライン演習は，感染症流行下でも学生・教員互いの安全が確保できる学びの方法となっていた。今後は，学生から挙げられた改善点を中心に講義方法を改善し，より学生が学びを深めやすい講義を計画していくことが必要である。

謝　辞

本科目の講義とアンケートの実施に当たり，アンケートにご回答いただいた学生の皆様，ピアレビューでご指導賜りました先生方，ご助言を賜りました先生方に感謝申し上げます。

引用文献

１）牧野晃子，中田諭，山本加奈子ほか．看護基礎教育におけるクリティカルケア看護「オンラインシミュレーション演習の実践と課題」：2021年度 急性・クリティカルケア論実践報告．聖路加国際大学紀要，2022; 8:47-51

２）文部科学省高等教育局大学振興課．遠隔授業等の実施に係る留意点及び実習等の授業の弾力的な取扱い等について（事務連絡）[Internet]. https://www.mext.go.jp/content/20200501-mxt_kouhou02-000004520_3.pdf〔参照 2022-09-30〕